

身を集中的に暖め、上半身、特に脳への影響を最小限にいく止めるために、大腿静脈から脱血、大腿動脈へ返血することを試みた。この方法は、開始直後の膀胱-直腸など、下半身の温度上昇は急速であるが、左右差が生じ、かつ40.5℃以上への上昇が困難である。これに対し、返血する動脈に挿入したカニューレを長くして分岐部を越える位置まで挿入すると、左右差が抑えられ、約1時間で直腸温は41.5℃に達し、その時の食道温は39℃くらいに抑えることが可能である。

泌尿器系悪性腫瘍では、施行前に腎機能の低下が存在する症例、手術により片腎である症例が多く、全身温熱療法の腎機能に及ぼす影響が他科の患者に比し大きいと考えられ、この点についても報告する。

26. 尿毒症性蛋白結合能阻害因子の尿細管機能におよぼす影響

(腎センター 内科)

○川島洋一郎・佐中 孜・杉野 信博

尿毒症患者の体液には、腎の排泄機能不全のために蛋白結合能阻害因子 protein binding inhibitor (以下、Ix と略す) と呼ばれるある種の有機酸が貯溜している。

この Ix は血漿蛋白、とくにアルブミンと強く結合しており、in vivo で解離させるためには体液の pH を 3.0 付近まで下げる必要がある。

このような血漿蛋白との結合性が、Ix にとって本質的なものであるとすると、Ix のほとんどは腎糸球体を通過することができない。したがって、Ix は能動輸送の機能をもつ尿細管上皮を経て、体外に排泄されるものと推察せざるを得ない。これと同時に、有機酸あるいは有機塩基の尿細管分泌を抑制することが予想されており、Depner らは Ix がスライス腎の PAH 取り込みを阻害することを見出した。

そこで、ラット単離腎の灌流法を導入し、Ix の PAH 分泌機能におよぼす影響について検討した。

その結果、Ix を投与することによって、CPAH は有意に減少し、FRNa は低下傾向を示すが、分時尿量、CIn はほとんど変化しないことが判明した。

以上の成績について、われわれは、尿細管での PAH 輸送が近位尿細管上皮の basal lateral 膜における血中から細胞内に能動的な取り込み、ならびに細胞内から尿細管腔への能動的あるいは拡散によって行なわれるものと考えられているので、Ix が尿細管上皮の血液側から直接的に作用して PAH の排泄を抑制したものと判断している。

27. 当院皮膚科における10年間のSTDの変遷 (皮膚科)

○岡村理栄子・宮林 りか・肥田野 信

従来、性病として梅毒、淋疾、軟性下疳、第4性病が包括されてきた。これらは一時減少してきたが、再び近年散発的に見られるようになってきた。また、最近では性病の概念が広範となり、疥癬、ケジラミ症や陰部疱疹、モルスクム、尖圭コンジローマ、カンジダ症等も含め、広義の性病 sexually transmitted disease (STD) と呼ぶようになってきた。

当教室49年1月から約10年間の初診患者約5万人中STDは約400名おり、梅毒は147名、その内顕症梅毒は7名であった。疥癬は51年度より急激に発生がみられ、外来における患者数は約240名にもものぼっている。陰部疱疹は52年度より急激に上昇し、総数41名となっている。その他、軟性下疳は2名、尖圭コンジローマ16名、ケジラミ症7名、亀頭カンジダ症2名、genital molluscum 1名であった。

28. 結節性硬化症の臨床的研究

(眼科) 桐淵 和子

目的

結節性硬化症 (Tuberous sclerosis) の多数例を検索し、視機能の管理と早期および確定診断上の眼科的諸問題を検討し、臨床像の実態を明らかにしようとした。

方法

1973年9月から1983年6月までの間に当科を受診した上記患者84例(168眼)を対象とし、眼科的精査を行なった。眼底写真にて経過を観察し、検査可能であった20例には蛍光眼底撮影を施行した。また、家族歴・全身所見を調査し、眼所見との比較検討を行なった。

結果

1) 年齢は生後2カ月から50歳まで、性差は、男子40例、女子44例、3主徴を有す完全型は48例(57%)であった。2) 家族内発生は10家系(19例)にみられ、77%は孤発例であった。3) 3主徴の頻度は、痙攣およびその既往のある者95%、顔面皮脂腺腫87%、精神運動発達遅滞67%であった。また、CT検査による頭蓋内石灰化は96%にみられた。4) 網膜過誤腫はIPD以上のもの71%、小腫瘤を含めると8割以上の合併を認め、蛍光眼底撮影では、腫瘍内の血管構成が多彩で、一様ではないことが判明した。5) この他、虹彩脱色素斑11例、眼底のpunched-out lesion および非定型の網脈絡膜欠損8例、乳頭過誤腫、虹彩・水晶体の非定型欠損、血管の白鞘、色素性変化、原発性および併発白内障等